

講 義 要 項

授業科目		共通基本技術 I (概念・記録・バイタル・安全・安楽)		担当者	井上 美奈子
区分	単位数	時間数	授 業 形 態		履修年次・前/後
	1 単位	20 (30) 時間	講義・演習・DVD・その他		1年次・前期
授 業 目 標	1. 看護実践の基盤となる基本的な考え方を理解し、必要な基本技術を修得する。				
授 業 内 容	<p>1. 看護技術の概念</p> <p>1) 看護技術とは</p> <p>2) 看護技術の特徴</p> <p>3) 看護技術の基本原則</p> <p>4) 看護技術の構成</p> <p>5) 基礎看護技術として求められる範囲</p> <p>6) 看護技術の遂行に求められる能力</p> <p>2. 感染予防技術</p> <p>1) 感染症とは</p> <p>2) スタンダードプリコーションとは</p> <p>3) 感染予防対策(手洗い、消毒滅菌)</p> <p>4) 感染経路別感染予防</p> <p>5) 無菌操作</p> <p>6) ガウンテクニック</p> <p>7) 演習(手洗い、無菌操作、ガウンテクニック)</p> <p>3. バイタルサイン</p> <p>1) バイタルサインとは</p> <p>2) バイタルサインの測定の意義</p> <p>3) バイタルサインの測定</p> <p>(1)体温 (2)脈拍 (3)呼吸 (4)血圧</p> <p>4) 演習(体温、脈拍、呼吸、血圧測定)</p> <p>4. 罨法</p> <p>1) 罨法の目的と種類</p> <p>2) 罨法の効果</p> <p>3) 罨法の作り方</p> <p>4) 罨法実施時の注意事項</p> <p>5) 演習(氷枕、湯たんぽ)</p> <p>5. 記録・報告</p> <p>1) 記録の意義と目的</p>				

	<p>2) 2 医療における記録とその内容</p> <p>3 看護記録</p> <p>4 看護記録の書き方と種類</p> <p>5 看護技術における記録の目的と重要性</p> <p>6 記録するにあたっての注意事項</p> <p>7 記録の管理</p> <p>8 報告の重要性と注意事項</p> <p>6. 観察</p> <p>1 看護における観察の意義</p> <p>2 観察の手段</p> <p>3 観察の方法</p>
参考文献等	<p>1 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学(2), 基礎看護技術 I, 医学書院.</p> <p>2 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学(3), 基礎看護技術 II, 医学書院.</p> <p>3 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院.</p>
評価	<p>1. 単位修得試験</p> <p>2. 演習・課題レポート</p> <p>3. 授業・演習態度</p> <p>4. 出欠状況</p>
備考	<p>実務経験：看護師としての豊富な知識・経験をもとに授業を行う。</p>

講 義 要 項

授業科目		共通基本技術 I (コミュニケーション)		担当者	松下 幸一郎
区分	単位数	時間数	授 業 形 態		履修年次・前/後
	1 単位	10(30)時間	講義・演習・DVD・その他		1 年次・前期
授 業 目 標	1. 看護におけるコミュニケーションの意義をふまえ、関係構築のためのコミュニケーションの基本を学ぶ。				
授 業 内 容	1. コミュニケーションの意義と目的 1) コミュニケーションとは 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 1) 構成要素と成立過程 2) コミュニケーションの種類 3. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 1) 医療におけるコミュニケーション 2) 関係構築のためのコミュニケーションの基本 4. 効果的なコミュニケーションの実際 1) 傾聴の技術 2) 情報収集の技術 3) 説明の技術 4) アサーティブネス 5. コミュニケーション障害への対応				
参 考 文 献 等	1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学(2), 基礎看護技術 I, 医学書院. 2. 系統看護学講座 専門分野 II 精神看護学(2), 精神看護の展開, 医学書院. 3. 篠崎恵美子・藤井徹他著: 看護コミュニケーション, 医学書院.				
評 価	1. 出席状況、レポート、GW参加状況、受講態度、筆記試験				
備 考	実務経験: 看護師としての豊富な知識・経験をもとに授業を行う。 「コミュニケーション」試験点数配分は、共通基本技術 I の中の 3 割とする。				